

# 風祭りに鼎る神々の響宴

風祭り(かざまつり)とは暦の24節氣のひとつ「210日(二百十日)」の別名です。立春から数えて210日目は通年9月1日になることが多いのですが、今年は何年なので8月31日となっているとのこと。

220日目の二百二十日とともに台風が来襲する厄日とされ、風や雨の害から農作物を守るために悪霊を歌や踊りで鎮めたり、豊作を神に祈願する風習を「風祭り」と呼び習わしてきました。江戸時代から続いている富山県八尾町の「おわり風の盆」が有名です。

悪霊を鎮め、平安を祈る想いは昔の農村の人々に限ったことではなく、いまこの国で暮らす人なら誰でもが願っていることではないでしょうか。昨年の大震災による被害はまだまだとどまることを知らず、私たちはいつ壊滅してしまうかもしれない国土への心配や、放射能汚染による恐怖にさらされ続けています。

加えて、先行きの見えない政治や経済からくる将来への不安など、考え始めるとひとときも休まることのない暗い想い、それはこの国に暮らす全ての人々に共通しているキーワードでしょう。心配という嵐の中に佇んでいる昔の農村の人々と同じです。

いま必要なのは意識を変えることです。ただ怯えるのではなく、怖がるのではなく、大丈夫だという強い気持ちと、不安を超越するエネルギーを自らの内に呼び覚ますことです。暗黒の想いを光のシャワーに変えて身体を新しく生まれ変わらせるのです。

2011年9月9日「重陽の節句に鼎る神々の響宴」、2012年2月3日「節分に鼎る神々の響宴」と、これまで2回行ってきた響宴コンサートは、私たちの心に根深く巣食っているそういった不安なエネルギーを払拭するべく開催してまいりました。

音には力があります。音は振動です。演奏者が繰り出すサウンドは空気を伝わり一瞬のうちに私たちの脳波を変化させます。

オーロラビジョンのように美しい響きを醸し出す牧野持侑さんのアルケミー・クリスタルボウル。闇夜を切り裂く雷のように鳴り轟く長屋和哉さんの金属楽器。風のように舞い変幻自在に音を操る奈良裕之さんの民族楽器。教会という祈りの場で展開する3人3様の異質なサウンドの融合に身を委ねているあいだに、私たちは宇宙の初まりにも似た原始のプロローグと、そして未来へと続くエピローグを体験することでしょう。

会場に入るまでに抱えていた暗い想いや果てることのない不安はもはや跡形もなく、明日という日を信じる新しい魂が生まれていることと思えます。

あなたに逢えて良かった!

文・金子夏枝(株式会社ピンポイント)

## 長屋和哉 percussion <http://www.ame-ambient.com/>

「ガイアシンフォニー第4番、第5番、第7番」「世界遺産(熊野・吉野編)」など、楽曲の多くを映画やテレビに提供している。07年公開の映画「ガイアシンフォニー 第6番」には自身も出演して、話題を呼んだ。同年にエッセイ集「すべての美しい闇のために」(春秋社刊)を発表。CDに「うつほ」「子熊野」「魂は空に 魄は地に」「イルミネーション/冥王星」「サイレントガーデン」などがある。ライブはアコースティックな楽器で構成されており、ゴングやおりん、シンキングボウルなどアジア全域に広がる金属製の仏具や祭祀楽器を主に使用する。

ハートよ♥つながれ



## 牧野持侑 Alchemy Crystal Bowl <http://crystalian.com/>

1970年代から90年代の20年間、北カリフォルニアの各地で暮らす。音楽や食べ物(マクロビオティックや自然食)、旅、シャーマニズムなどへ興味を深める中、85年にクリスタルボウルと出会う。96年に帰国した後は、南伊豆波勝崎に拠点を移しクリスタルボウル・ヒーリングスペース「くりすたり庵」及び熱海に「熱海ギャラリー」を開設。最新型のアルケミー・クリスタルボウルによる振動性音響ワークショップを提供するとともに、CDの制作や全国各地でのコンサート活動を展開している。CD&DVDに「倍音浴」「睡眠浴」「時空浴」「雷雨のあとに」などがある。

## 奈良裕之 percussion

<http://www.narayuji.com/>

ヨガとアーユルヴェーダの呼吸法を取り入れたヒーリング・ワーク「サイレント・セッション」や、福祉施設・教育施設・病院で演奏すると共に日本各地の神社・寺・教会・遺跡などで奉納演奏を行う他、写真や書による個展も開いている。07年公開の映画「ガイアシンフォニー 第6番」に出演。CD&DVDに「光の旋律」がある。スピリット・キャッチャーやチベタンボウル、タオスドラムなどの民族楽器をまるでダンスを踊るように演奏することで定評がある。

写真: 依田恭司郎

デザイン: 野村高志+KACHIDOKI